

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている C: やや不十分である
B: おおむね達成できている D: 不十分である

様式1(高等学校)

学校名	佐賀県立伊万里実業高等学校
-----	---------------

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)	<p>昨年度の評価は、概ね良好であった。</p> <p>一方で、生徒の自己肯定感のさらなる高揚や、キャンパス間における交流の一層の活性化については、若干の課題が見受けられ、今後の改善が望まれる。</p>
------------------------	---

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	心身ともに健康で逞しく、「至誠」と「礼節」を重んじ、専門的知識・技術を生かして社会に貢献し愛される人材を育成する。
----------------------------	---

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標
	<p>○求める生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたい ・地域に貢献したい ・チャレンジしたい ・創造(創意工夫)が好き ・協力できる 	<p>○学びたい心を大切にします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の横断的な学び ・探究活動による課題解決型の学び 	<p>○Society 5.0 時代で生き抜く人を育てます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学び行動する力 ・確かな専門性 ・幅広い視点で考える力 ・多様な人々と協働できる力 ・問題解決力 	

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				中間評価	最終評価	主な担当者				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価			最終評価			
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上	○朝の小テストの平均正答率7割以上	・朝学習と、小テストを定期的実施することで学習習慣を身につける	B	・各科目・各回によって成績状況は異なり、到達度が低い生徒が10～15%程度いる。多くの教科の学習の基礎となるものであり、継続して指導する必要がある。	B	・各科目・各回によって成績状況は異なり、到達度が低い生徒が10～15%程度いる。また、満点者数についても昨年度を4割ほど下回っており(商C)、本テストに限らず、学習の重要性について職員と再確認の上、生徒への指導に臨む必要がある。	B	・到達度が低い生徒が10%～15%程度いる。 ・勉強の必要な生徒に話す機会を増やす。 ・学力と豊かな人間性を育成してほしい。	教務部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●学校教育活動等での各種行事を通じて生徒自身に情操教育を行った教員90%以上	・ボランティア活動の実施 ・防犯教育等の講話の実施	A	・清掃活動等を通して社会に貢献する姿勢や社会性を育成することができた。 ・4月に防犯講話、7月に交通安全教育を実施。生徒に対して、危機管理の重要性を再度確認させることができた。	A	・地域貢献活動等を通して、社会に貢献する姿勢や社会性等、豊かな心を身に付けた生徒の育成ができた。 ・生徒指導講話を受講して、「ためになった」「思う」「やや思う」と回答した生徒が合わせて約97%おり、交通安全・防犯・薬物乱防止の意識を高めている。	A	・生徒指導講話で「ためになった」と思う人が多く、意識の向上が見られる。 ・今後もボランティア活動を継続して行ってほしい。	生徒指導部
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について理解し、組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・職員研修の実施 ・指導の手引き等を通じての職員への周知・徹底	B	・7月にいじめに関する職員研修会を実施し、職員の共通認識を図った。 ・いじめの認知件数は昨年度とほぼ同じ。未然防止、早期発見、事案対処を行っている。いじめに関するアンケートは定期的実施した。(県標準様式、学校独自様式) ・いじめの認知後は、対策委員会を通じて情報を共有して解決を図り、再発防止のための見守りを続けている。	A	・いじめに関する職員研修を通して、いじめの定義、防止のための取組、事案対処などについて理解し、組織的に対応しようとする姿勢がある。 ・いじめの認知件数は、昨年度とほぼ同じ状況である。未然防止、早期発見、事案対処のために担任等と情報交換を行ったり、定期的なアンケートを実施し、現状の把握に努めた。	A	・事案対処から情報交換を目指してほしい。 ・定期的なアンケートを実施してほしい。 ・アンケート結果を活用し、いじめの防止につなげてほしい。 ・いじめ対策の早期の実施による効果が出ていると思います。	生徒指導部
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に良い食事をしている生徒80%以上	・保健だよりの毎月発行 ・食に関するアンケートによる意識調査の実施 ・食育だよりの年間3回発行	A	・月に1度、季節に合わせた健康の情報を生徒に発信することができている。暑い夏であったが、熱中症で来室する生徒が少なく、保健だよりが役立っていると思われる。 ・お弁当の日を設けることで、生徒が食に関心を持っていたのではないと思われる。	A	・保健だよりを毎月発行し、熱中症、感染症予防などの啓発を含め、季節に応じた健康に関する情報を発信することができた。 ・ほぼ毎日3回食事をしている生徒の割合は80%を超え、バランスのよい食事を意識して摂っていることがアンケートで分かった。お弁当の日設定や食育だよりを通じて、生徒に食の大切さを伝えることができた。	A	・毎日3回の食事が実践できている生徒が80%を超えている。 ・食の大切さの伝達ができている。 ・食に関することは、授業でも指導してほしい。 ・お便りやアンケートを活用した、健康に関する教育活動は素晴らしい。	保健部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定及び呼びかけ ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	B	・職員の時間外労働に対する意識が高まり、前年度より減少傾向にあります。 ・年次有給休暇の取得については、個別に声掛けを行い取得日数を増やす計画です。	B	・時間外労働在校等の時間については、農林キャンパスが約32時間であり、商業キャンパスが約25時間であった。 ・職員1人当たりの年次休暇取得日数は、約10日であった。	B	・時間外労働を両キャンパスともに、あと少し減らしてほしい。 ・教職員もしっかり休むべきである。	管理職
●特別支援教育の充実	○障害のある生徒への学校生活支援の充実	○生徒の実態把握と校内支援体制の確立 ○個別支援計画の学期ごと(年間3回)の作成	・巡回相談員を派遣する ・保護者との連携 ・職員研修の実施	A	・早期の段階で、巡回相談員を派遣することができた。 ・生徒の実態に応じ、特別支援計画を作成することができた。今後も生徒の実態把握及び支援を継続していきたい。	A	・早期の段階で、巡回相談員を派遣したり、スクールカウンセラーにつなげたりして、生徒の困り感を把握し、支援体制をつくらることができた。保護者とも担任を通じて生徒の状況や支援内容を共有し、連携することができた。 ・職員研修を年1回実施し、知識だけでなく、事例に応じた生徒支援について学びを深めることができた。	A	・支援体制がしっかりできている。 ・職員研修が年1回実施されている。 ・生徒への声掛けを頑張っている。 ・関係機関との連携強化により、当該生徒の学校生活の充実が図られている。	保健部

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○(独自評価項目・任意)	○教育DXの推進	○電子黒板または学習用PCを活用した授業の実施率80%以上(教員) ○課題研究での学習用PCの活用率80%以上(生徒)	・教科指導における、効果的な場面で電子黒板等を活用する ・課題研究での記録、発表スライドの作成等で学習用PCを活用する	A	・電子黒板や生徒の学習用PCは、総合的な探究の時間、課題研究、講話などでの活用が顕著である。 ・課題研究では、学習用PCを用いて写真や動画での記録やデータ集計などに積極的に活用している。	A	・電子黒板や生徒の学習用PCは、総合的な探究の時間、課題研究、講話などでの活用が顕著である。またすべての教員が電子黒板を利用して、生徒にオンライン講話に参加させることができる。 ・課題研究では、すべての生徒が学習用PCを利用してデータ収集を行い、活動レポートを作成した。	A	・電子黒板や学習用PCの活用ができている。 ・活動レポート作成ができている。 ・今後も活動を続けてほしい。	ICTリーダー
○(独自評価項目・任意)	★唯一無二の誇り高き学校づくり	○地域と連携した活動ができていると回答した生徒が70%以上 ○将来、必要とされる力を身に付けることができた回答した生徒が80%以上	・課題研究や部活動などをとおして、生徒と地域との連携を促進する ・授業だけでなく、LHRや総合的な探究の時間を有効に活用する	B	・9月26日(金)、10月3日(金)の両日で高校応援団の企業様を訪問した。 ・11月11日(火)にキャリア教育研修を実施した。	A	・地域との連携が取れたと回答した生徒は、1年生82%、2年生73%、3年生79%であった。 ・今後、必要となる力が身に付いたと回答した生徒は、1年生97%、2年生92%、3年生86%であった。	A	・地域との連携が取れている。 ・今後もSNSなどを活用してほしい。	主幹教諭
○(独自評価項目・任意)	○広報活動の充実	○学校だよりを年間8回発行 ○学校HPの「キャンパス News」「キャンパス Event」を随時更新する。	・学校だよりを発行し、保護者や近隣中学校等への配布、学校HPへの掲載を行う ・学校HPを活用し、学校行事やイベントの発信を行う ・各マスコミに対して、積極的に取材を依頼する	A	・複数の媒体により、保護者や地元への発信を、メディアクリエイティブ部の協力と合わせて逐一おこなった。	A	・SNS・学校HP・学校新聞等による学校の魅力発信を強化することができおり、体験入学参加者数や入学希望者数(11月時点)のデータでは例年を維持している。	A	・SNSやHP、学校新聞による学校の魅力発信の強化をしてほしい。 ・今後もSNS等の情報発信を続けてほしい。	教務部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)	<p>・心の教育と探究的学びを継続し、学力向上につながる教育環境をさらに充実させる。</p> <p>・今後もステークホルダーとの信頼関係の更なる向上を目指してほしい。</p> <p>・これからも両キャンパスの生徒の交流を深化させ、専門性を生かした共同活動を一層拡充する。</p>
----------------------	---